

指導のねらい

文章と補助資料とのかかわりが理解できるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

B ② 三 資料の図が、文章のどの部分を補足しているかについて、文章中から抜き出す。

正答率64.8%

学習指導要領における領域・内容

〔第2学年及び第3学年〕 C 読むこと

オ 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。

授業アイデア例

指導例1

■ 図表などの資料を含む文章を読み、本文と資料との関係について考える。

教材例

次に、小さいということが挙げられる。信号機の写真からも分かるように、発光ダイオードの二つの大きさは、従来の白熱電球に比べてはるかに小さい。この小さいという特徴を生かして、携帯電話の着信ランプや携帯型ゲーム機の光源（バックライト）などに発光ダイオードが多く使われている。（以下、省略）

【発光ダイオード】



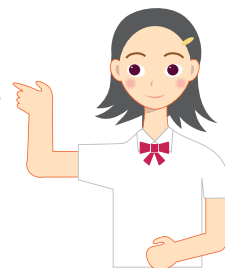
*上の発光ダイオードの全長は約35mm、発光部は約9mm。

（平成21年度全国学力・学習状況調査問題から）

学習の流れ

- 1 資料と対応する本文中の部分に傍線を引く。
- 2 資料の効果について考える。
- 3 読み手の理解を助けるために、ほかにどのような資料が考えられるかを話し合う。

大きさを比べるときには、白熱電球の写真があってもいいかも。



指導例2

■ 図表などの資料を含まない文章を読み、必要な資料を考える。

教材例

与一は鎗矢^{やちや}を取つて弓につがえ、十分引きしぼつてひょうつと射放した。小柄^{せみぎ}とはいふものの、矢は十二束三伏^{さんぷく}の大矢だし、弓は強弓だ、鎗矢は浦一帯に響くほど長く鳴りわたつて、あやまりなく扇のかなめの際から一寸ぐらい上を、ひいふつと射切つた。鎗矢は海へはいると、扇は空へ舞い上がった。しばらくは大空にひらひらひらめいたが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつと散つたのであった。（以下、省略）

（『日本古典文学全集30 平家物語二』／小学館）

学習の流れ

- 1 読み手の理解を助けるために資料が必要な部分を探す。
 - ・ 具体的な様子が分かりにくい部分
 - ・ 資料があることで、書き手の考えや主張を更に強調できる部分 など
- 2 ①に基づいて必要な資料を学校図書館やインターネットなどで探す。
- 3 探した資料を添えることで、文章の理解がどのように深まるか、意見を交流する。

この図があることで、場面の様子がより分かるようになったよ。



鎗（かぶら）
穴が開いていて、矢を射るとヒューと音をする。

鎗矢

先端に鎗が付いている矢。開戦の合図などに用いられる。

【添える資料の例】

留意点

- 教科書の教材を用いて同様の指導を行うと効果的である。